

平成24年11月26日

雲仙市

担当課	教育委員会生涯学習課
担当者	参事補 中島泰二郎
電話	0957-38-3111
FAX	0957-38-3514
メール	shogaigakushu@city.unzen.nagasaki.jp

「第2回3市合同島原半島伝承芸能まつり」について ～島原半島の今も継がれる伝承芸能の祭典～

〔前 文〕

第2回3市合同島原半島伝承芸能まつりが、12月2日（日）午後1時30分よりハマユリックスホールで開催されます。

島原半島の今も継がれる伝承芸能などを、13の団体により発表されます。本伝承芸能まつりは、島原半島に古くから継承されている素晴らしい伝承芸能の保存継承に努め、発表・交流を行うことにより地域社会の教育文化の向上、連帯感の高揚、活性化の促進に貢献することを目的に、昨年度より開催しております。

報道機関の皆様には、本伝承芸能祭りの告知協力並びにご取材くださるようお願いいたします。

記

- 日 時 平成24年12月2日（日）午後1時00分開場
・ 午後1時30分開演
午後4時30分終演予定
- 場 所 ハマユリックスホール
（雲仙市南串山町乙 2-15 Tel0957-88-3305）
- 入場料金 無料（入場整理券は半島内各市公民館、文化会館で配布
しています。）
- お問い合わせ先 雲仙市教育委員会生涯学習課 担当：中島
Tel0957-37-3113
- その他 当日配布するプログラム冊子中の出演団体紹介を別紙の
とおり添付いたします。



《出演団体プロフィール》

雲仙市(国見町)
荒踊り



■東里荒踊り保存会
荒踊りの歴史は古く、佐賀本藩大守鍋島家三代目の勝茂公率いる軍勢が1638年島原の乱の戦いが終わって佐賀に帰る途中、神代に3月2日から5日まで滞在の時、四面宮で戦勝祝いとして、神代領民に躍らせたのが始まりとされる。今では、毎年11月の第二日曜日に自治会行事として住民総出で継承の目的と、親睦を兼ねて踊っています。昭和57年から神代小学校運動会5・6年生による荒踊り、この指導と当日の音頭さんの参加を現在まで続けています。

雲仙市(愛野町)
新崎湊いない踊り



■愛のまち新崎いない踊り保存会
愛野町新崎地区は千鳥川の川下で有明海の柔らかい干潟の海に接して昔からのこの地方の人々は養分の豊かな潟土に潮水や高波を防ぐ堤防を築き田んぼにして稲を作る事が悲願だった。足もとぬかるみ工事もままならぬ中、木の板にわら縄を巻き板の上を「オーコ」で担って運ぶ際の作業をこの歌と踊りでその時代の状況を伝承したものである。

雲仙市(千々石町)
御神楽



■千々石中学校吹奏楽部
千々石中学校吹奏楽部の御神楽は、中学校に隣接する橘神社で行われるお祭り「観櫻火宴」の「奉納の舞」です。吹奏楽の練習の傍ら御神楽の練習もし、地域の伝統も継承しています。今年には雲仙市観光PR大使として、上海航路オーシャンローズ号船内で踊って頂きました。見応えのある舞です。どうぞご覧ください。

雲仙市(小浜町)
富津浮立



■富津浮立保存会
富津浮立は、古から富津地区に伝わる伝承芸能で、小浜神社の祭礼や富津の天満宮などに奉納されてまいりました。そして昭和56年には「富津青年団」が全国大会に出場いたしました。これを契機として、後継者の育成、衣装の新調、発表会等を行い復活を遂げまいりました。あれから30有余年となりました。現在は、雲仙市立富津小学校の男子児童(1年~6年生)を対象に「大太鼓」「鉦(かね)」「地太鼓」「鼈(さざら)」の15名の踊りに師匠5名による笛と謡、総勢20名で演技をいたしますので、皆様で「声援のほどよろしくお願い致します。」

雲仙市(南串山町)
小豆島望郷歌



■小豆島望郷歌保存会
南串山浦岡地域は香川県小豆島からの移民が多く、古くは伊勢参りと高野山詣は生涯の夢であった。遠い祖先から歌い継がれた伊勢音頭調の望郷歌。「お伊勢参りをするなら、自分の故郷の小豆島に立ち寄って行きたい」という願いがこめられている。



《出演団体プロフィール》

南島原市(口之津町)
瀬詰太鼓
せつめだこ



■瀬詰太鼓保存会
島原半島の最南端、口之津町を拠点に和太鼓演奏活動を続け、今年で34年目を迎えます。口之津の歴史や風景をテーマとしたオリジナル楽曲を中心に演奏することで、口之津のことをより多くの方に知ってもらおうとともに、後代に継承し続けてゆきたいとの想いで活動しています。今回演奏する「瀬詰太鼓」とは、口之津と対岸の天草との間にある早崎海峡を表現した曲です。日本三大潮流にも数えられるこの海峡は、時に荒々しく、また時に穏やかな表情を見せません。そうした緩急の碎け散る波のうねりを太鼓の音で表現しました。

南島原市(南有馬町)
北岡名浮立
きたがみうりたて



■北岡名浮立保存会
北岡名浮立保存会は、先祖代々、氏神様の「秋の大祭に五穀豊穡と無病息災を祈願し、親から子へ、子から孫へと継承していくことを目的に発足した。この浮立は、道行(みちゆき)・リリユウ・君が代・字(下)・シャギリ・重(かさね)・バチから構成されている。

南島原市(口之津町)
真米銭太鼓
まこめぜんだこ



■真米銭太鼓
銭太鼓とは、安来節の音色に乗せて、硬貨を入れた竹筒をそのリズムに合わせて動きながら身体で打ち鳴らすもので、島根県の安来に由来するのではないかと云われている。口之津町真米銭太鼓は、昭和22年2月頃、口之津の寺院・静雲寺の鐘楼落成に当たり、地元鉄工所で製作された釣鐘が静雲寺へ牛車で運ばれた際に、その落成の祝賀として、地元の人たちがその牛車の前を歩きながら踊ったものが最初で、祝いの席、茶の間の余興として喜ばれ、現在は地元祭りで披露されている。

島原市
島原の子守唄
しまばらこもりうた

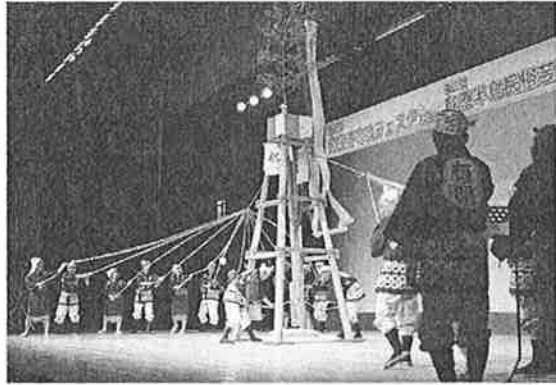


■愛児保育園
素朴な中にも深い哀愁を感じさせる、昭和20年半ばに誕生した「島原の子守唄」は、島原出身の故宮崎康平氏により、作詞、作曲されたものです。振り付けに難しいところもありますが、子ども達は楽しんで踊っています。島原の伝統芸能を伝えていくお手伝いが出来ればと思います。



《出演団体プロフィール》

島原市
土塙唄と土塙実演



■有明土塙唄保存会

50年前迄、土塙は家を建てる時土台を固めたり、土手を作る時土を固めたりする為に行われていましたが、現在は機械化に依り行われていません。このままでは土塙唄は忘れられてしまう、土塙唄を後世に残そうとの思いで平成16年に保存会が結成されました。地区の古老から土塙唄を習い現在4曲程保存しています。

島原市
島原甚句



■花駒社中・花柳富士紗

この度、島原半島伝承芸能祭に島原甚句を取り上げて頂きまして有難うございます。長崎風土記によりますと、戦前昭和10年にできた民謡で一度はレコードにもなったそうですが、戦争でいつの間にか消えてしまったそうです。その後50年ぶりに発掘され、やっと陽の目を見たようです。現在、長崎の郷土民謡協会の先生の指導を受け、島原の皆さんにより島原甚句に舞で色を添え、より一層皆様に甚句を楽しんで頂きたいと思えます。舞の手ぬぐいは澄んだブルーと白で海を表現できるよう工夫致しました。波の音も聞こえてきたようです。

三市合同
島原七万石踊り



■島原七万石を踊る会

今を去る事四百年。時は徳川の時代、京都福知山より松平忠房公を藩主に迎え、大分豊後高田三万石を合わせて七万石の島原藩が誕生しました。その後、幕末まで続く松平藩の治世に、島原の芸能大いに栄え、領民は松平家の重ね扇の紋と島原城を大切に守り続けてまいりました。この島原の優美な歴史と伝統を色濃く残す島原七万石踊りを、三市合同にてご披露させて頂きます。尚、この会は雲仙市、島原市、南島原市、三市合同で踊りの輪をもつて島原半島をつつと、大きな夢をにかけておる会でござります。

特別出演
マーチング



■小浜中学校吹奏楽部

小浜中吹奏楽部は1965年11月に創部されました。1991年よりマーチングに取り組み現在に至っています。学校内外、特に地域のイベントにも多数出演の依頼を受け、地域活動にも力を入れています。「感謝・礼儀・夢をあきらめない心」「みんな大事な音楽仲間」をモットーに、全員で心を通わせながら毎日の練習に励んでいます。